

# 平成24年度図書館重点事業 実施報告

東村山市立図書館

## 平成24年度 図書館重点事業

### 1 「第2次子ども読書活動推進計画」の推進

子供に関わる部署や関連施設との連携、子供の読書に関わる市民活動への支援、市民と行政との協働体制の充実を図り、年代や生活環境に合わせた取り組みを行う。

- (1) 「子育て中にたくさん絵本と出会えるまち」づくり(東村山版ブックスタート事業)の推進
- (2) 子供の読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実
- (3) 学校での読書推進に向けた学校図書館専任司書の育成および支援

### 2 資料提供の充実

調べものや生活上の問題解決のほか趣味や実用に関することなど、様々なニーズに対応できる資料をバランスよく収集し、多様な市民の暮らしに役立つ情報を提供する。

- (1) 市民の関心や時機をとらえた提供の工夫
- (2) 視覚障害者等へのデイジー化情報提供の充実

### 3 読書環境の整備

施設の老朽化を踏まえ、状況に応じた迅速な対応による安心・安全な読書環境維持に努めると同時に、社会情勢の変化に応じた節電等の取り組みを行う。

- (1) 安定的な施設管理のための連携体制の強化
- (2) 節電に配慮した適切な読書環境維持への工夫

### 4 職員体制の充実

市民サービスの維持・向上を目指した業務の組み換えや人材育成による体制の充実を図る。

- (1) 新体制に対応した適切な業務の見直しおよび改善
- (2) 職員の人材育成

# 1. 「第2次子ども読書活動推進計画」の推進

## 1-1. 「子育て中にたくさん絵本と出会えるまち」づくりの推進（継続）

### 取り組みと実績

市立図書館を中心に、おひさま広場、子育てひろば、児童館、保育園など、市内のいろいろな場所で乳幼児が絵本と出会う機会を提供した。（東村山版ブックスタート）

#### 1. おはなし会の開催（平成23年度は東北大震災の影響で開催回数が少なかった）

内容	実施館	実施回数		大人(人)		子ども(人)	
		H23	H24	H23	H24	H23	H24
赤ちゃん絵本ひろば (0.1歳)	中央図書館・ 本町児童館	18	21	447	523	446	523
2・3歳のおはなし会	中央図書館	11	10	72	82	79	92
0～3歳のおはなし会	地区館4館	47	52	452	551	486	771
幼児のおはなし会	全館	144	161	197	495	782	1,216
その他のおはなし会	萩山・廻田	4	8	35	74	25	116

\* その他、市内の子ども関連施設等でのおはなし会には、要請に応じて読み聞かせボランティアの派遣を行った。（実績は次項目1-2参照）

#### 2. 3～4か月児健診・乳児学級での啓発事業の企画・支援

読み聞かせボランティアが親子一組ずつに絵本を読んだ後、読み聞かせの大切さや市内のおはなし会情報を伝えた。乳児学級の歯科編・栄養編ではプログラムの中にボランティアによる読み聞かせを取り入れ、情報提供を行った。（ボランティア派遣は次項目）

#### 3. おすすめ絵本パックの設置

身近な場所で絵本を楽しんでもらうことを目的に、「おすすめ絵本パック」として図書館で選んだ良質の絵本を20冊セットして子ども関連施設（おひさま広場、子育てひろば等）に設置（18か所（23年度：16か所））し、セット内容の更新やメンテナンスも継続した。新たに多摩北部医療センターへの設置や本の選定用リスト作成等も実施した。

### 成果

- ◆ 3～4か月児健診の会場での読み聞かせは特に第1子の保護者の満足度が高く、市内各所でのおはなし会参加につなげることができた。
- ◆ 市民のかたからの寄附により読み聞かせ用の絵本等を補充することができた。
- ◆ 市内の病院と新たな連携が始まり、病児への働きかけのきっかけができた。

### 課題

- ◆ おすすめ絵本パック入れ替えの希望が多く、継続的な資料費が必要である。
- ◆ 図書館内でのおはなし会参加者を増やすためには、おはなし会スペースの拡充、駐車場、ベビーカー置き場、授乳やおむつ替えスペースの充実など、乳幼児親子のための環境整備が必要である。

### 図書館協議会からの意見

- ◆ 図書館のおはなし会は、初めての参加でも馴染みやすいように配慮された仕組みがとても良い。
- ◆ 病院との連携について、救急指定病院では一時的な関わりしかもてないため、今後は滞在型の病院でもやってほしい。

## 1-2. 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実（継続）

### 取り組み内容と実績

#### 1. 支援事業

- (1) 東村山子ども読書連絡会 (2回 参加人数 延べ41人)  
市内で子どもの読書に関わる活動をしているグループや個人をつなぐ連絡会として年2回開催。図書館からの情報提供や参加者相互の情報交換などを行った。
- (2) 講座や研修会等の開催

#### 第4次東村山市総合計画実施計画「子ども読書活動ボランティア養成事業」

- 子ども読書応援団養成講座2012 (5回 参加人数 延べ484人)  
子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成事業として、子どもと本をつなぐ会「東村山うちでのこづち」（市民と図書館による実行委員会）が主催し、5年目の開催となる。講座の企画運営を協働で実施している。
- 乳幼児への読み聞かせボランティア研修・交流会 (9回 参加人数 延べ117人)  
乳幼児への読み聞かせで使う手袋人形や小物の製作や、情報交換を行う。
- 読み聞かせ入門講座 (5回 参加人数 74人)  
小学校に職員が出向き、保護者を対象に読み聞かせの基礎知識を伝える。
- その他、学校図書館ボランティア研修会・図書修理講習会の開催、『学校図書館の手引き』（管理・運営マニュアル）の更新など

#### 2. 協働事業（ボランティア派遣等）

- 乳幼児への読み聞かせ 39か所 314回  
3～4か月児健診や関連施設での乳幼児への読み聞かせ活動の充実を図った。
- 小中学生への読み聞かせ・紙芝居上演（いのちの教育推進事業等）
- 各種関連団体との取り組み（おはなし会、豆本づくり講習、調べ学習講座、紙芝居講座等）

### 成果

- ボランティア向けの講座、各所での乳幼児へのおはなし会、開館記念おはなし会等市民の協力なくしてはできない事業を成功させることができた。
- 各講座の受講者やおはなし会参加親子はもちろん、事業に協力してくれたボランティア自身にとっても満足度の高い取り組みになったことがアンケートや活動記録からうかがえる。
- 関連団体との事業も多彩で安定感のあるものとなった。

### 課題

市民との実行委員会で実施した子ども読書応援団養成講座については、5年目の区切りとして今年度で終了し、子どもと本をつなぐ会「東村山うちでのこづち」は市民団体として独立することになった。引き続き同会を支援するとともに、図書館主催のボランティア養成事業について予算確保、内容充実に努める必要がある。

### 図書館協議会からの意見

- ボランティアとの協働がよくできており、成果が上がっている。
- 中学校での紙芝居上演に生徒が感動していた。継続的に実施してほしい。
- 関連団体の協力により調べ学習講座を実施しているが、図書館の本で調べる体験は必要であり、本を使いこなすためには調べ方の指導が必要である。

## 1-3. 学校での読書推進に向けた学校図書館専任司書の育成および支援（継続）

### 取り組み内容と実績

学校図書館専任司書（以下「学校司書」、平成23年9月から配置）通年配置の初年度にあたり、学校への支援のしくみを整理しつつ、その支援の質も量も大幅に拡大した。

学校司書の配置：指導室予算による配置。12名による2校兼務の体制で、各校には週2日、1日5時間の勤務。うち2名は支援担当として週2日ずつ中央図書館に勤務して図書館職員とともに各校への支援を行う。

#### <研修等>

- 学校司書への研修会3回のほか、学校図書館担当者連絡会（3回）での研修や教員意見の吸い上げ・調整、学校図書館ボランティア研修会1回を実施した。
- 管理・運営マニュアル『学校図書館の手引き』の更新のほか、学校司書配置に関わる各種調整を指導室・学務課と連携して進めた。

#### <支援>

- 毎月図書館だよりのコンテンツとして、テーマ別図書紹介、図書館基礎知識などを、また授業支援ができるように教科書単元別の支援例や関連図書の情報を送付した。
- 学校で収集しにくい地域資料について、ブックリストを作成したり、パンフレットを送付したりして支援した。
- 活動報告書用のひな型を作成し、各校の活動状況を記入してもらい、まとめた。
- 各校へは学校司書をはじめ教員からの相談に応じて、授業で利用する本の準備・貸出、購入図書選定の相談受付、ボランティアへの修理講習等を実施した。

学校への図書貸出件数 664 件（16,532 冊）（23 年度 472 件 14,343 冊）

### 成果

- 学校司書に対し、年間を通して計画的に支援することができた。
- 児童・生徒や教員に学校司書を活用する意識が高まり、学校内で読書活動が拡大した。
- 各校の活動事例を収集してまとめたり、研修時に発表し合ったりして、学校司書同士が相互に研鑽し合う機会が作れた。

### 課題

- 教員が学校司書を活用するにつれ、勤務時間拡大への要望が寄せられた。
- 臨時職員であるため安定した任用ができず、配置の拡大や任用の安定化への計画的な対応が必要である。

### 図書館協議会からの意見

- 学校図書館が充実してきたことは評価するが、学校司書の勤務時間をもっと広げる必要がある。
- 学校の授業も変わってきており、関連する資料を並行して読みながら総合的に考えを深められるようにするためにも、授業に合わせてそれぞれのクラスで関連図書を活用できるようにしてほしい。
- 学校司書だけでなく、司書教諭の授業軽減の時間数を増やし、学校全体のコーディネーターに時間をさけるようにすることが大切である。

## 2. 資料提供の充実

### 2-1. 市民の関心や時機をとらえた提供の工夫（継続）

#### **取り組み内容・実績**

多様な市民の暮らしに役立つ情報提供を行うため、市民の関心や時機をとらえた図書館情報の提供を工夫する。

#### **1. 収集する情報の充実・更新**

- ◆ 活字資料の利用が困難なかたへの対応として、大活字資料の予算配分を増額し、より多くのタイトルを収集して、選びやすくするための所蔵目録を発行した。
- ◆ ブックリスト「全生園とハンセン病を知る」の改訂を行った。

#### **2. 提供方法の工夫**

<見出し板や書架レイアウトの工夫>

- ◆ 利用目的に応じて複数の書架から関連付けて本を探することができるように、類似の本がある書架や参考資料室、書庫の資料へ導くための見出し板を新たに配置した。
- ◆ 秋津図書館の外国語資料とティーンズコーナーのレイアウト変更を行った。
- ◆ 廻田図書館では広いスペースを活かし、本の魅力を伝える表紙を見せた棚を増やした。

<本のテーマ展示> （全館合計で 137 回）（23 年度は 110 回）

- ◆ 時機をとらえた展示…「オリンピック・イギリス」「伊勢神宮ー今年に一度の式年遷宮ー」「私のおすすめの一冊」(開館 20 周年記念)など
- ◆ 新たな本との出会い・魅力を伝える…「宇宙を旅する」「生誕百年の作家たち」など
- ◆ 季節感を伝える…「たのしいナツを過ごそう」「花さんぽ」「冬あそび 冬ごもり」など
- ◆ 生活情報コーナー…「遺言状を作ってみる」「薬の基礎知識」「起業するには」など
- ◆ 児童コーナー…小中学生向きブックリスト「いい本みつけた」「水の中のなかまたち」「新しい年がによろよろやってくるゾ!」「ねこづくし」など

<常設コーナーの充実> （41 か所）

- ◆ 保護者向け、小学生向け、中高生向け、地域に関するものなど、利用目的に応じた本選びがしやすいように、常設コーナーの情報の更新を進めた。

#### **成果**

- ◆ 本のテーマ展示は関連する資料の見直しに繋がり、買い替えや除籍などのメンテナンス、蔵書構成の見直しの機会としても活用できた。
- ◆ 大活字資料は以前より利用が広がり、目録も活用されている。

#### **課題**

- ◆ 本のテーマ展示は多様な内容で行っているが、さらに男女共同参画基本計画に関連した女性問題や妊娠・出産・育児など、テーマをより広げた収集・PRが必要である。
- ◆ 活字資料の利用が困難なかたへの配慮として、引き続き大活字資料の充実や音訳CDの収集を進め、より多くの利用につなげられるよう展示等のPRを行う。

#### **図書館協議会からの意見**

- ◆ 来館者以外へのPRの拡大も必要ではないか。
- ◆ もっと資料費を確保してほしい。
- ◆ 利用者のニーズに応えるために、提供の方法がよく工夫されている。

## 2-2. デイジー化情報提供の充実（一部変更で継続）

### 取り組み内容と実績

視覚障がい者への提供情報としてデイジー資料（デジタル音声資料）が求められており、当市においては東村山朗読研究会（25年4月に東村山音訳の会に名称変更）の協力を得て、デイジー資料作成を進めている。

退会等で会員数が減り、負担が増えていたため新規会員を募集して初級講習会を行った。

現行会員向けに音訳のための中級講習会を行った。

（実績）①7月から市報等広報類のデイジー版発行を開始した。10月からは市ホームページ上で音声公開を開始した。

②デイジー図書を4タイトル作成した。岩波書店の雑誌「図書」を5月号からデイジー化した（25年1月にテープ版の作成は終了）。

③音訳ボランティアが15人入会した。

萩山図書館の拡大読書器については、プライバシー保護の観点から対面朗読室内に設置していたが、多くのかたの目にふれる場所に置くことで効果的にPRしてほしいとの要望があり、試行として3月からカウンター脇に設置場所を移動した。

### 成果

- ◆ デイジー資料作成の体制や運用が整備されてきて、作成資料の中心をテープ版からデイジー版へと転換することができた。
- ◆ 音訳ボランティア体制の増強ができた。

### 課題

- ◆ 新規会員によるデイジー作成については、デイジー機器操作講習を25年度に行うため、録音作業を開始するまでにはまだ時間がかかる。
- ◆ テープ版資料の継続を希望する利用者があるため、現時点ではデイジーに一本化することはできない。2種類を並行して作成することになるため、作成作業の負担が増えている。
- ◆ 声の市報「はと」等のデイジー化を進めるにあたり、利用者が聴きやすい資料にするためのデジタル録音方法について、更なる研修を進める必要がある。
- ◆ デイジー編集を行うためのノートPCの増設と基本ソフト（OS）の更新が困難である。

### 図書館協議会からの意見

- ◆ 東村山音訳の会について新規会員の育成ができたことは成果といえるが、経験の積み重ねにより熟達していくものであり、さらに会員の負担を軽減するための取り組みが求められる。
- ◆ 行政情報の音訳化については、予算や人的配置も含めて、市としての情報提供のあり方を整理すべきである。

### 3. 読書環境の整備

#### 3-1. 安定的な施設管理のための連携体制の強化（継続）

##### **取り組み内容・実績**

各館とも開館から20年～30数年経過しているため、設備の故障等が目立ってきているが、本庁の管財課、設備管理委託業者、また併設館においては公民館職員との連携・協力により、調整しながら対応を行った。

<中央図書館>

- ◆ 2階のトイレ等改修工事（小便器交換と老朽化した配管の改修）

このほか、参考資料室内への手すり設置、掲示板の修繕、LED照明の一部導入、放送設備配線改修等を実施した。

<富士見図書館>

- ◆ 正面玄関の窓枠の塗り替え

<萩山図書館>

- ◆ 共同書庫の本の出し入れに欠かせない荷物用昇降機（業務用エレベーター）の修繕
- ◆ 閲覧席（キャレル）と背中合わせに書架が配置されているが、通路が狭く利用者同士のトラブルが発生しがちであったため、背面の本を撤去して側面の書架に移動した。その結果、キャレルの静かさが保たれ、また側面に移した書架では本をゆっくり選べる環境を作ることができた。（一部作業を継続中）

<秋津図書館>

- ◆ 絵本コーナーのじゅうたん張り替え・事務室の雨漏り修繕（公民館予算）

<廻田図書館>

- ◆ 蛍光灯安定器の修繕

##### **成果**

- ◆ いずれの館も緊急度や重要度を考慮して、併設館においては公民館の協力を得て予算執行を柔軟に行うことで適切な修繕・補修を行うことができた。
- ◆ 萩山図書館では閲覧席周辺の本の引き抜き・移動により、開架スペースの蔵書数は減少したが、閲覧席の環境が良くなり、場所を移した書架からの利用が増加した。

##### **課題**

- ◆ 施設の修繕等については、短期的、長期的な観点を持って関連部署と協議・検討を行い、計画的な予算確保に努める。特に中央図書館については、市の公共施設再生計画策定を進める中で耐震等の検証や今後の在り方について検討していく必要がある。
- ◆ 高齢者を含めた滞在型の利用増加への対応や、乳幼児親子が気軽に利用できる環境づくりについては課題が多い。児童コーナーとブラウジング（閲覧）スペースが隣り合わせている萩山図書館など、施設面での抜本的な対策が必要である。

##### **図書館協議会からの意見**

- ◆ 高齢者の滞在型の利用が増えていることに対して、適切な配慮が必要である。
- ◆ 中央図書館については、抜本的な対策として全面改築の必要性が高い。



### 3-2. 節電に配慮した適切な読書環境維持への工夫（継続）

#### **取り組み内容と実績**

##### **1. 節電への取り組み**

- ◆ 館内の利用状況と照度を配慮した蛍光管の間引き（消灯）
- ◆ 利用が少ない時間帯での利用者用・事務用端末の一部利用停止
- ◆ 空調設備の温度管理の徹底（クールビズ・ウォームビズの徹底）
- ◆ 事務スペースのこまめな消灯・PC機器の節電モードへの切り替え
- ◆ すだれ等の活用や、中央館正面窓際にゴーヤを植えた緑のカーテン作り
- ◆ 長時間点灯する外壁の照明等、状況に応じた白熱電球からLED電球への一部交換

##### **2. 契約業者の選定**

平成25年度分の電気事業者決定にあたっては24年度に引き続き入札を実施し、特定規模電気事業者（PPS）との契約を締結した。

#### **成果**

- ◆ 利用者にも協力いただき、館内の照度や空調温度を調節して、節電に取り組んだ。
- ◆ 外気の寒暖の差により、空調で使用する電力量は影響を受けることになるが、全体としては前年度実績より概ね低く抑えることができた。

（具体的には、中央図書館は厳冬期に電力使用料が一時的に多くなったためにkw時の単価が上がった（デマンドが上がった）が、例年より暖かくなるのが早く、結果的には前年度実績より低く抑えることができた。）

#### **課題**

- ◆ LEDなど節電効果のある機器への切り替えについては、設置場所や効果を充分検証して計画的に進められるよう引き続き検討していく。
- ◆ 冷暖房の効率を上げるために天窓等へ遮光フィルム貼付を検討していく。（中央図書館）

#### **図書館協議会からの意見**

- ◆ できる範囲の取り組みは実施されているので、今後も利用者の読書環境に配慮した節電努力を継続してほしい。

## 4. 職員体制の充実

### 4-1. 新体制に対応した適切な業務の見直し・改善（一部変更で継続）

#### 取り組み内容と実績

##### 1. 職員体制の変更

図書館利用の増加や、市民・他機関との協働に伴う業務量の増加に対応し、土日祝日・夜間の変則勤務を安定的に維持しうるために人的体制の整備を行った。

<内容> 正職員 2 名削減（中央図書館奉仕係・秋津図書館各 1 名）  
再任用職員 1 名と嘱託職員 3 名を増員

##### 2. サンプルネでの図書返却受付開始

東村山駅西口市民ステーション「サンプルネ」での返却について、平成 24 年 4 月より 2 階の地域サービス窓口を活用して返却図書の受付を開始した。

<内容> 市民課窓口の開設時間内で返却本等をあずかり、1 日 1 回の図書館交換便により図書館に配送して返却処理を行う。平成 24 年度は、図書 6,918 冊・CD199 点、合計 7,117 点の返却を受け付けた。

##### 3. 利用者用インターネット端末の設置に向けての提案

前年度の提案から、さらに例規等追録やパソコンの設置に関する検証を行って再提案をまとめ、平成 25 年 10 月からの事業化について実施計画事業に位置づけた。

<内容> 最新の多様な情報の入手を可能とする商用のオンラインデータベース導入と、中央図書館に利用者用インターネット端末 3 台の設置を行う。

#### 成果

- ◆ 職員体制の変更により、勤務体制の安定化を進めることができた。
- ◆ 利用の多い「現行日本法規」は紙ベースでの収集を継続しつつ、その他の追録を廃止し、利用者用インターネット端末の設置と商用データベース導入に組み替えることで、費用対効果の高い形で、信頼性の高い情報をより迅速に提供するための環境を整備する提案にまとめることができた。
- ◆ サンプルネでの返却が可能になったことにより、利用者の利便性が高まった。

#### 課題

- ◆ 正職員の削減に伴って、館ごとや横断的な担当者会ごとの業務分担の調整や、情報共有、職員への意識啓発や人材育成にさらに丁寧に取り組んでいく必要がある。
- ◆ 利用者用インターネット端末の運用について、具体的な検討を進める。
- ◆ サンプルネで返却できることについては、まだ周知が十分とはいえないため、引き続き PR を行う。

#### 図書館協議会からの意見

- ◆ 利用者用インターネット端末の設置については、求められるサービスであり、期待している。
- ◆ タブレット端末や電子書籍等の新しいサービスの動きについても、先進市の情報等を収集して検討していく必要がある。

## 4-2. 職員の人材育成（継続）

### 取り組み内容・実績

#### 1. 内部研修 5回

① 日常業務を深めるための研修（専門知識・技能の習得）

図書館新人研修（対象：新任職員・新任嘱託職員）・検索研修（対象：全職員）

② レファレンス研修

レファレンス課題研修（毎月2問演習問題を出し、調査後口頭で回答。回答に関して補足説明をする）

対象：調査資料係嘱託職員

聞蔵Ⅱビジュアル操作研修（朝日新聞記事DBの操作説明と演習を、朝日新聞社から講師を招いて行った）

対象：レファレンス関係職員

③ ブックトーク研修（小学4年生を対象としたブックトーク訪問に向け、その内容や紹介の方法について職員が講師となって実演指導をした）

対象：児童担当嘱託職員

#### 2. 外部研修への参加 17回

- ◆ 都立図書館・都内の図書館関連団体が開催する講演会、研修会への参加により、図書館に関する知見を深め、より専門的な技能の習得を図った。

#### 3. その他

- ◆ 探しやすく整備された書架づくりを維持するため、書架担当職員が適切な書架整理や引き抜きができるような助言、育成を行った。
- ◆ レファレンスカウンターに入る嘱託職員には、回答に使用した資料やWeb情報についての解説や接客について、随時説明して情報共有を図った。
- ◆ 業務分担の見直しを進め、個々の職員ができる日常業務の幅をひろげることで繁忙期や担当不在の場合の組織的な対応能力を向上させた。

### 成果

- ◆ 参考資料室カウンターに入る嘱託職員やブックトークを行う児童担当嘱託職員に研修を行い、業務への理解を深めることができた。
- ◆ 各館とも人員が十分でない中での調整により、積極的な受講体制をとることができた。

### 課題

- ◆ 業務の質を高めるためには、今後も研修としての取り組みが有効であり、効率よく行えるように計画的に実施していく必要がある。
- ◆ オンラインデータベースの導入により、データベース操作・活用の研修も必要となる。

### 図書館協議会からの意見

- ◆ 多岐にわたる質問への対応が求められるが、誰に聞いても答えられるように体制を広げていくことは必要である。
- ◆ 研修は大切なので、今後も積極的に取り組んでもらいたい。